

横浜文化体育館再整備事業について

1 再整備の考え方

- (1) 現横浜文化体育館敷地及び旧横浜総合高校敷地を活用して再整備を進めます。
- (2) 市民利用をはじめ、大規模なスポーツ大会やコンサートなどの興行利用に対応し、地区の活性化にも資する施設として、メインアリーナ施設とサブアリーナ施設（横浜武道館）を整備します。
- (3) 敷地の一部には、民間収益施設を誘導します。誘導に当たっては土地の貸付を基本とし、旧横浜総合高校敷地については、民間の提案により売却も可とします。
- (4) 事業は二敷地一体での公募とし、PFI事業により進めます。
- (5) 施設は2段階で整備することとし、旧横浜総合高校敷地へのサブアリーナ施設を先行して整備し、平成32年6月の供用開始とします。



2 事業手法

横浜文化体育館再整備事業はPFI事業で行い、施設については公の施設とし、維持管理・運営は、指定管理者（PFI事業者）とします。

「PFI事業」とは

「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」に基づき、公共施設等の設計・建設・維持管理・運営等を、一体的に民間事業者を実施させることで、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して効率的・効果的に実施し、市民サービスの向上やコスト削減を図る事業手法。

3 想定施設の概要

	メインアリーナ施設	サブアリーナ施設
延床面積 (駐車場を除く)	15,100 m ² 以上	12,500 m ² 以上
アリーナ面積	2,400 m ² 以上 (体操競技、バスケットボール2面 等)	2,800 m ² 以上 (バスケットボール3面、武道8面 等)
最大観覧席数	5,000 席以上 (可動席等を含む。)	2,500 席以上 (可動席等を含む。)
武道場	—	武道4面(畳床併用)、観覧席 500 席以上
その他	体育室、メディア室、更衣室、控室、管理諸室、防災備蓄庫 等	多目的室、更衣室、控室、管理諸室、防災備蓄庫 等

【参考】 現横浜文化体育館等の概要

1 横浜文化体育館

場 所	中区不老町2丁目7番地 ※JR 関内駅南口から 290m。
敷地面積	11,014.23 m ² ※平沼記念レストハウス敷地を含む。
建ぺい率/容積率	80%/500%
建設年度	昭和37年(築53年)
延床面積	8,666.62 m ²
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地上3階
【諸 室】	アリーナ 1,920 m ² (40m×48m、高さ13m)、観客席 (2F:1,723席、3F:504席) トレーニングルーム、控室、和室、更衣室、事務室、駐車場等

2 平沼記念レストハウス

場 所	横浜文化体育館に併設
建設年度	昭和39年(築51年)
延床面積	1,012.52 m ²
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地上2階
【諸 室】	特別室 50 m ² 、1号室 72 m ² 、2号室 80 m ² 、3号室 80 m ² 、4号室 65 m ²

3 旧横浜総合高校敷地

場 所	中区翁町2丁目9番地10 ※JR 関内駅南口から 520m
敷地面積	8,280.00 m ²
建ぺい率/容積率	80%/500% (一部600%)